

大学院教育課程における食育専門家の育成 ～お茶の水女子大学における取り組み～

お茶の水女子大学 生活環境教育研究センターSHOKUIKU 総合研究部門

石川 朋子

Key words: SHOKUIKU、エビデンス、人材育成、大学院教育

お茶の水女子大学では、平成19年度から連続する2つの文部科学省特別経費の採択を受け、食育専門家の育成に取り組んでいる。先のプロジェクト「子どもの発達・成長過程を見通した食育の実践と教育プログラムの構築（平成19～21年度）」では、子どもを対象とした食育に着目し、学内外の幼稚園や小学校、また本学学生を対象として食育活動を実践するとともに、栄養教諭養成のための実習マニュアルを作成した。続いて平成22年度からは「多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成」として、学校教育の場に留まらず、より広い対象者を想定した食育を推進するために、多様な現場で正しい知識を発信できるリーダーの育成にあたっている。主要事業として、平成23年度より大学院教育課程に文理融合型の副専攻「SHOKUIKUプログラム」（以下本プログラムとする）を開講している。ここでは食育専門家を育成する取り組みについて、本プログラムを中心に紹介させていただく。

本プログラムは、学術的基盤に立った確かな食情報を読み解き、多様化する食育の現場でエビデンスに裏付けされた食育活動を企画、統率できる食育リーダーの育成を目的としている。大学院副専攻として、文部科学省が大学院教育の充実のために提言する『学問分野の学際化、融合化、幅広い知識と柔軟な思考能力をもつなど、社会で求められる人材の要請に対応するために、主専攻以外の分野を体系的に履修させる主専攻・副専攻制』を実践している。本プログラムは、食に関わる広範な学問領域を「食教育」「食科学」「食環境」「食文化」の各分野から多角的に捉える文理融合型の副専攻となっており、専門分野に関わらずすべての大学院生が履修できる。主に博士前期課程対象のコースワークであるベーシックコースと、博士後期課程において食育研究と副論文作成を行うアドバンスコースから成る。

開講科目のうち「エビデンス食教育論」は、本プログラムの核となる必修科目である。これからの食育活動の質を高めていくためには、常にエビデンスのある確かな食情報を提供し、その真意を的確に伝えていくことが重要である。食育リーダーとして食情報におけるエビデンスの重要性を認識し、エビデ

スの強弱を見極める力を養うため、食をとりまく様々な学問領域で行われている学術研究やその意義について網羅的な知識を養う。主に食品栄養科学的視点、すなわち調理科学、食品機能学、栄養生化学、生体機能学、公衆栄養学、栄養教育学、学際的な食文化研究の立場から、本学教員によるオムニバス形式の講義を行っている。昨年秋には、社会人を対象に、本科目の理念に沿った公開講座「エビデンスに基づいた食育活動を目指して」を開講した。すでに社会で食育活動を指導・実践している食育リーダーの方々を中心に、延べ300名以上にご参加頂いた。

この他の科目では、食の科学を体感するサイエンス実習、エビデンスを活かしたディベート演習、対象者に合わせた食育講座を構築する食育演習、農学部附属農場で行われるフィールド実習や企業が実施する食育講座への参加など、さまざまな体験型授業を取り入れている。

アドバンスコースでは、主専攻の博士論文作成にあわせ、自らが構築したエビデンスを食育の視点から考察した副論文の作成を課している。また副論文における学術的な成果を簡潔にまとめ、「SHOKUIKUレポート」として発行している。

本プログラム修了者は、食に関わる学問領域の網羅的な知識を有し、食育に必要な実践的基盤を築いた人材として、学長より「お茶の水女子大学専門食育士」に認定される。本プログラムを開講した平成23年には、「第二次食育推進基本計画」において「生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進」が重点課題のひとつとして掲げられた。青年期から成人期、高齢期に至る世代は、単にライフステージの違いだけでなく、社会的、経済的要因も絡みあい、その背景や価値観はますます多様化している。このような対象者の多様性に柔軟に対応し、より効果的な食育の普及に結び付けることの出来る人材は、「生涯にわたる間断ない食育」を実現する上で欠かすことは出来ない。様々な学術的背景をもつ「お茶の水女子大学専門食育士」たちが、学校教育の場のみならず、社会の様々な場で、特に青年期以降を対象とした“大人の食育”を実践し、生涯食育社会の構築と継続を担う人材として大いに活躍することを期待している。